

「清水勇人市長と語る」タウンミーティング【桜区】

〈開催概要〉

日 時：令和5年9月9日（土） 14:00～15:30

会 場：桜区役所 4階 大会議室A・B・C

参 加 者：14名（傍聴者0名）

市出席者：市長、脱炭素社会推進課

事 務 局：市長公室秘書広報部広聴課

開催テーマ：地球温暖化対策について考えよう ～みんなでアクション とともに未来へ～

参加者との意見交換

●参加者

<発言1>

今後始める地球温暖化対策として、大げさなものではないのですが、私が家庭の主婦として実践していることは、夏はお風呂のお湯を早めにためることです。今は、水道水がとても温かいです。家族が帰ってくる、食事の支度をする頃だと冷たくなってしまうので、温かいうちにお風呂にためておいて、シートでも引いておくと温かさが保たれて、ガスの使用料が少し少なくなります。冬は逆に、入る間際にお湯をためて使います。

それと、本当に細かいことですが、缶やペットボトルなど、いろいろなものをリサイクルするためにためています。その際に、洗っておかないと虫がわいてしまいます。洗う水として、排水してしまうようなお水を使うようにしています。あと、お米を洗ったお水は結構栄養があるので、バケツに取っておいて、お庭の花とか植木にまく水に使用しています。日常的にしていることが地球温暖化対策の一つになるのではないかと思います。そのようなことを、毎日主婦としてさせていただいています。

<発言2>

私はさいたま市の地球温暖化対策についての、意見の例に書いてある見える化という点に関連してお聞きしたいと思います。

太陽光発電の設備が公立の学校に導入されたのは、私の記憶だと、10年ぐらい前だと思います。既に10年経っています。資料では、一般家庭800世帯分の電気が発電されるということなので、これが実際にどういう形で世帯に配電されているのか。例えば、東電で1回買い上げるのか、ということを知りたいと思っています。広報誌やホームページも見たのですが、効果の記載を見つけることができなかったので、どこを見たらよいかを教えてくださいました。

<発言3>

私はさいたま市の地球温暖化対策について考えをお話します。

私が注目したのは、太陽光発電設備の設置に関する補助金についてです。

家族で太陽光発電設備を設置したいという考えも出ているのですが、お金がかかる印象が強いです。そもそも補助金が出ることも知られていなかったりして、設置に対して、金銭的な面で否定的な意見を持つ人が多い現実があると思います。

太陽光発電設備は設置や管理にお金がかかりますが、使用していれば太陽光の再生可能エネルギーによって電気代も削減でき、結局は設置代分以上に金銭面でのメリットも多いと思います。補助金があることが周知されることで、だんだん普及すると思います。エコや地球温暖化対策にもつながっていくと思います。

< 発言 4 >

続けて補助金のことで意見を申し上げたいと思います。

私も太陽光発電設備と生ごみ処理機を、補助金をいただいて利用しています。設置に当たって、非常に金銭面で悩むところもありますが、今後長い目で見て、非常に節約になります。あと市民農園を借りています。コンポストではないのですが、生ごみ処理機で少し乾燥させたものを市民農園で使っています。

年間で予算が決まっていると思うので、希望者全員に補助を出すことができないと思いますし、市民農園を利用していないとできた堆肥を使えないこともあると思います。

ただ、他の市町村でも取組が結構あるものなので、是非太陽光発電設備もそうなのですが、生ごみ処理機でできた堆肥を、自分で市民農園をやっていない人でも、例えば学校で畑をつくり、そこに持っていくような仕組みができればよいなと思っています。

< 発言 5 >

生ごみの地球温暖化に関わる重要性が世に広まっていないと思います。生ごみは水分が多く、燃焼するのに二酸化炭素をたくさん排出します。私はフードロスという観点で取組をしていて、民間企業の方と協力して、フードロスを意識したレシピ、例えばえのきの土台部分を使ったレシピなど、皆に参加していただいて、レシピコンテストを開催することになっています。宣伝みたいになってしまいますが、皆さんの参加が不可欠なので、是非参加していただきたいと思います。

あと、フードロスとはまた全然違うのですが、電力の消費が下がれば、電気は主に火力発電によって作られているので、二酸化炭素も削減できると思っています。電力は企業と関わってくるので、難しいかもしれないのですが、「少し使い過ぎですよ」というような警告表示などを出して、子どもの中で、例えば使い過ぎていたらレッドカード、グリーンカードといった遊びの要素で取り組めると面白いと思いました。

< 発言 6 >

今日は、現在取り組んでいる地球温暖化対策について、お話したいと思います。

近年、地球温暖化がますます深刻化し、異常気象が問題となっています。地域温暖化を緩和するためには有効な対策を講じる必要があります。エネルギーの節約と排出ガスの削減も非常に重要ですが、農作物を利用した温室効果ガスの吸収も非常に重要です。

私たちの大学の研究室では、さいたま市緑区の見沼たんぼの廃耕地を利用して、モリンガを栽培し、二酸化炭素を吸収しています。主な確認方法はドローンを使用して、モリンガの表面積を3Dモデリングし、それによってモリンガの二酸化炭素の吸収速度を確認することです。

モリンガを選んだ理由は3つあります。1つ目は、それが熱帯植物で高温に耐えることができることです。2つ目は、成育期間が短いこと。3つ目は、栄養価値が高く、種には薬用価値があることです。

現在私たちのモリンガの栽培は2年目に入り、新品種の開発や、モリンガのパスタ、モリンガ茶、モリンガのケーキなどの新製品を開発しています。これにより、廃耕地を十分に利用し、二酸化炭素を吸収して、収益も増加させることができます。これは現在取り組んでいる地球温暖化対策のプロジェクトです。

< 発言 7 >

2つ感じたことがあります。

1つ目は、さいたま市の人口が増加しているのは初めて知ったことだったのですが、人が増えているなら、家やマンションやビルが増えているのだろうと感じています。資料の中にもZEBの話はあったのですが、ZEH（Net Zero Energy House：生活で消費するエネルギーよりも生み出すエネルギーが上回る住宅を指す。）の話はなかったので、そこについては何かしているのでしょうか。今、家を建てるとしたらZEH化が必須だと思います。太陽光発電をしようとなったら、太陽光パネルが一番に出てきやすいと思うのですが、ヒートポンプなどの省エネ器具の導入も、せっかく脱炭素先行地域に選ばれたなら必須にしてもよいのかなと感じました。

もう一つは、新型電気自動車についてです。最近側面に貼れる太陽光パネルも出てきている中で、高速道路の壁面に導入する話をいろいろなところで最近聞くようになりました。首都高では導入しているところを見ます。埼玉県、さいたま市、どちらも高速道路がたくさんあると思うので、導入してはどうかと感じました。

< 発言 8 >

脱炭素先行地域に選ばれた、他の脱炭素先行地域を見ていると、農村などのイメージが強いのですが、この人口の多い都市部で採択されたのがすごいなと思っています。何がすごいかというと、再生可能エネルギーを導入しようとする、面積が必要になってくるので、人口密度の高いところは難しいと一般的に考えられていると思います。

そこで、まず市内でできることとしては、既に設置もされていますが、メガソーラーを設置したり、建物に太陽光発電設備を設置したり、あと最近では、農地の上に太陽光パネルを乗せる「ソーラーシェアリング」と呼ばれるものも作られていると思います。しかし、都市部の狭い面積でやるよりも、農村など他の地域と協定を組んで再生可能エネルギーで発電した電力をもらい、そこで得た電力分の電気代を、その地域に還元してあげることで、さいたま市だけではなく、日本全体の成長につながると考えています。

あと、電気自動車や水素自動車のお話がありましたが、インフラが整わないと、なかなか購入しづらいと考えています。充電スポットがまだ少ないと思いますので、車自体の補助金だけではなく、充電スポットに対する補助金をどんどん増やすべきではないかと考えています。

< 発言 9 >

私は地域の老人会の会長をやっています。先日、集まりがあったときに、お年寄りの方に地球温暖化対策についてどう思いますかという話を聞いてみました。毎日のように、新聞に地球温暖化に関する記事が載っています。今日の新聞を見ても、千葉県、茨城県辺りの豪雨災害の記事がありました。この豪雨災害の根底にあるものを考えると、地球温暖化によるものだ、だんだんわかってくるのですが、新聞の文章だと、言葉も難しくてわからないのです。我々はどうすれば地球温暖化対策ができるのだろう、という話になりました。

国も、県も、市も、同じ方向に向かって今進んでいます。ですから、これをもっとわかりやすく、地域の自治会や老人会の、いろいろな会合を通して、積極的に話を進めていくべきだと思いました。

いろいろ話を聞いて、キーワードとしては節約と、便利さと、ぜいたくです。我々は節約をしなければいけなかった時代、それから便利さのために大量消費をした時代、日本国が低迷した時代を生きてきました。皆さん方をお願いしたいのは、節約をしなければいけなかった時代に、どういうものの考えで生活していたのかを是非考えてほしいということです。その時代に戻る必要はありませんが、その時代に日本の国民は何を考えて、どういう方向に向かっていただろうか。SDGsの根本はここにあると、この前、お年寄りの話を聞いていて考えました。

今、節約というと、けちくさいように聞こえるのですが、決してそうではありません。節約をするためには何をするか。学校の屋上にソーラーパネルをつけて、大変効果があったという話がありました。これも節約になります。学校で使う電気を東京電力に払いたくないから、屋上に太陽光パネルをつけて、学校で使う電気は学校で起こそうという考え方だと私は思うのです。

節約をするために何をするかということ、排出してしまうような水をためて使用するお話がありましたが、うちのエアコン2台から出る水の量を測ってみたところ、1日に出る水の量は約30ℓから40ℓです。1か月に直すと1トンぐらいになります。この水を庭の植木にやったり、庭にまいたりしていますが、これもSDGsの取組になります。ただ、捨ててしまうのではなくて、ためておけば、それが一つの資源になるのだと思いました。

是非、高校生、中学校、その他の学生の皆さんは頭が切れると思うので、節約をしていた時代の人たちが、何を考えて節約をしていたのかを考えてほしいと思います。今はSDGsという非常に難しい言葉を使っていますが、根底には節約の精神があると、今回のテーマを見て思いました。これから何年生きるかわかりませんが、そういう方向に向かって我々も地域の皆さんと、何とか頑張っていこうと思いました。若い皆さん、よろしく願います。

◆市長

>> 発言 1

御自身で取り組んでいる様々な地球温暖化対策、日常の中で行っている、具体的でわかりやすい、いろいろな取組についてお話をいただきました。

お風呂の沸かし方、ため方、それからペットボトルや缶のリサイクルの際に、中をちゃんと洗浄してからという取組や、お米をといた後の水を庭にまくといった工夫をしているお話をいただきました。

おそらくいろいろな工夫をして生活している、いろいろな知恵を出されている方もたくさんいらっしゃると思います。市民の皆さんがどう工夫をされて、取り組んでいるのかを、市から皆さんへお知らせし、できそうな取組を知っていただくことは、すごく重要だと思います。

御紹介いただいた事例も、それだったら私もできるという人たちもおそらくいるのではないかと思います。

>> 発言 2

見える化の大切さのお話をいただきました。

御案内のとおり、約10年近く前に、さいたま市では2、3年ぐらいで一挙に太陽光発電設備と蓄電池を全校に入れました。当時は結構画期的なことだったのですが、太陽光発電設備がどのように使われ、活用されたのかをホームページには載せてはいるのですが、わかりにくいのだと思います。

わかりにくい情報をどのように皆さんに見せていくかということと、見える化はすごく大きなポイントだと思います。皆さんが工夫をし、努力したことが、どのように効果が出たかをお知らせすることが必要で、例えば使用電力が縮減できた、こういった電力に使うことで温室効果ガスを下げることができた、などを知っていただくことで、継続的に取り組んでいただけたと思います。

いただいた御意見は、非常に重要な視点だと思っています。これから多くの皆さんに関わって実行していただくことが重要だと思いますので、見える化というのは、重要なポイントだと思います。

>> 発言 3

太陽光発電設備の補助金のことについて御意見いただきました。

なるべくいろいろな形で広報をしたり、事業者の方々にもお話をしたりしていますが、補助金はそれぞれの年度で決まった予算があって、その上限に達すると、その年度はそれ以上使えないので、全員に補助を出すことができない場合があります。毎年、大体予算の上限まで活用していただいているのですが、電気代がすごく高くなっていることもあり、太陽光発電設備や蓄電池を活用する御家庭が、これから更に増えるのではないかなと思っています。

太陽光発電設備をつけると何百万というお金がかかります。今はP P A (Power Purchase Agreement: 企業・自治体が保有する施設の屋根や遊休地を事業者が借り、無償で発電設備を設置する契約モデル。企業・自治体は施設で使用した分の電気代を設置者から購入する。) やリースなど、いろいろな手法が出てきていますので、月々の支払いは電気代よりも安いかもしれません。これはケース・バイ・ケースだと思うので、一概に安いとは言えませんが、今は電気代がどんどん高くなっていますから、太陽光発電設備の設置の推進を図っていくこともすごく重要だと思っています。

東京都や川崎市は原則新しい個別の住宅に、太陽光発電設備の設置を義務づける条例ができています。さいたま市も、条例化するかどうかは別としても、太陽光の活用を更に強化していく必要があると考えています。

>> 発言 4

太陽光発電設備と、コンポストのお話をいただきました。

コンポストを活用して、御自身がやられている市民農園のお話をいただいたわけですが、私たちとしてもコンポストで作った堆肥をどうするかという課題があって、なかなかコンポストの推進に大きく踏み出すことが、必ずしもできていない状況にあります。生ごみを少なくしていくのはすごく重要なことだと私たちも思っていて、大分それぞれそのような課題がありながらも、いろいろな自治体でコンポストの取組なども充実を図っているところもありますので、私どもも検討していく必要があると思っています。

学校でも、それぞれ学校によって少しやり方が違うのですが、原則全ての学校で学校教育ファームをやっています。学校の中で、小さな容器で作っているケースもあるのですが、学校の中に畑や田んぼのようなものをつくっていたり、学校の外側にそういった農地を確保したりしているケースもあります。そういったところで活用していただくことも含めて、もっと生ごみ対策を重視していく必要があると思っています。

>> 発言 5

お話にあったように、生ごみをぬれたまま出されると、焼却に非常にたくさんのエネルギーが必要になって、二酸化炭素の排出量が増えることになります。さいたま市としても、なるべく水を切って出してくださいといった呼びかけをしています。最近ではフードロスキャンペーンもやっていて、チームEat ALLとか、あと皆さんは聞いたことがあるかわかりませんが、Saitama Sunday Soupというキャンペーンをやっています。日曜日には冷蔵庫にある野菜など生もので、使用期限が迫っているものをスープにして、家族団らんでおいしく食べてくださいというキャンペーンで、動画を作って推進しています。これからフードロスをどうなくしていくかはすごく重要で、食料は希少な資源です。

世界中では飢えて食事ができない、そういった国々、そういった皆さんがたくさんいる一方、一部の先進国が食品の大方を消費して、しかも捨ててしまっている現状があるという事実もありますし、フードロスを削減していくことでよい方向に向かうと思います。

レシピコンテストの方、是非成功させていただきたいと思います。私どももPR等、しっかり応援していきたいと思っています。

あと、使い過ぎの電力に対して、レッドカードなどの警告表示を出すという、面白いアイデアもありがとうございます。市としてどこまでできるかはありますが、最近電気会

社等で、前年と比べて何%消費電力が下がったらポイントをもらえるというキャンペーンをやられたりしていますので、アプリなど、民間ベースの取組を活用いただき、自分が今まで使っていたものよりどれだけ増えたか減ったかを知ることが可能だとは思っています。市としてもできることを考えていきたいと思っています。

>> 発言 6

モリंगाを今、見沼田んぼで栽培し、そのモリंगाの重要性についてもお話をいただきました。高温に強いとか、短い期間で成長するとか、あと多用途に使えて、薬用価値があるというお話をいただき、大変素晴らしい取組だと思います。

私たちも、今、温室効果ガスの排出を防ぐ取組をお話しましたが、もう一方で、二酸化炭素を吸収する方に力を入れることも、あわせてやっていかないといけないと思っています。今私たちはグリーンインフラということで、これからの新しいまちづくりでも、駅前周辺も含めて緑を増やし、今の緑を更に保全・活用していこうとしています。そういった緑を増やす取組をあわせてやっていくことが必要だと思います。

研究室の取組は素晴らしいと思いますし、私どもが協力できることがありましたら協力させていただきたいと思っています。

>> 発言 7

ZEB、ZEHということで、エネルギーゼロのビル、建物とか家を推進することが大変重要だという御意見をいただきました。更にソーラーパネルだけではなくて、ヒートポンプや蓄電池などの導入も推進すべきというお話でした。最初の頃は太陽光発電だけでしたが、太陽光の場合は、発電できる時間帯がかなり集中してしまうので、それを効率的に使うためには、蓄電池や、ヒートポンプなどの手法で、なるべく太陽が上っていないタイミングでも使えるようにしていかないと効率的に使えません。今、私たちも補助金は、太陽光発電設備にも出していますが、太陽光発電設備と蓄電池のセットの補助金も用意をさせていただいています。

また、側面に貼れるパネルなど、新しい技術がたくさん出てきています。いろいろな事業を民間の事業者と協力しながら、実証実験や取組なども行っています。こういったこともすごく重要だと思っていますし、新しい技術を積極的に取り入れてもらえるようにしていきたいと思っています。

また、最近窓の改修に対して国から補助金が出ています。窓を二重、三重ぐらいにすると冷暖房の効果が非常に高くなり、電力を消費しにくくなります。あとカーテンを遮熱カーテンに替えていただくことでも大きな効果があると言われています。様々な手法、様々な技術を総合的に取り入れないと、ゼロカーボンシティを実現するのは難しいと思っていますので、検討していきたいと思っています。

>> 発言 8

農村と協定を結んで、そこで生まれている、吸収をする方のエネルギーを買い取ったり、いわゆる郊外でつくられている再生可能エネルギーを買い取ったりすることを積極的にやるべきだというお話がありました。これは本当に重要な視点で、おそらく政令指定都市で単独でゼロカーボンシティを実現できる場所は、おそらくないのではないかと思います。他市と協力して取り組まないと、ゼロカーボンシティの実現は非常に難しいと思っています。

私たちも既に一部の自治体と協定を結んでいます。また、さいたま市は、大宮駅が新幹線で東日本のいろいろな都市とつながっているため、東日本の皆さんと一緒に発展していきたいという考え方の下にいろいろな取組を行っています。その中で、SDGsの共同宣言をさせていただいていますので、そういったものも活用して、地方の吸収する力、それから再生可能エネルギーを作り出す力なども活用させていただきながら、ゼロカーボ

ンシティを実現したいと思います。

それから、充電スポットを更に増やすことも必要だという御意見いただきました。さいたま市は2009年から、E-KIZUNA Projectという取組をスタートしました。これは電気自動車、次世代自動車の普及促進を図っていこうというものです。当時、二酸化炭素の排出量を他の都市と比べると、家庭用の自動車から出される二酸化炭素の割合が、他の都市よりも高かったのです。そのため、電気自動車とか次世代自動車の普及促進をやろうということで、2009年から、充電器を整備することと、電気自動車の役割の理解促進を図ることなどを目標に決めて進めてきました。

いろいろな自治体や企業とも連携をしながら普及促進も図ってきて、今200か所ぐらい、さいたま市は充電器を設置していますが、それでもまだまだ足りないと思っています。おそらくこれから電気自動車が普及すると、今は大体1か所の発電場所に充電器が1機しかないところがほとんどなので、使用中で充電できない状況が生まれると思います。今、電気自動車に大幅にシフトし始めていますので、まだまだ充電器の設置を増やしていく必要があると思います。

>> 発言 9

人生の先輩である皆さんは、戦争前、戦争中、戦後、そして高度成長があり、今日があると、大変な時代を乗り越えてきた皆さんです。その中で得た生活の中での知恵をたくさん持って、それを使いながら乗り越えてこられたのだらうと思います。例えば最近、暑くなると打ち水をしています、これは昔からの生活文化や風習です。おそらく皆さんの中に知恵がたくさん詰まっていっしやるのではないかと思います。

是非、そういった先輩方の知恵をお借りしたいと思いますし、そうした皆さんの知恵をつないでいただくことも、重要なことだと思います。

この地球温暖化の問題は、私たち自身の問題でもありますが、2030年とか2050年というのは、2030年というあと6年少しです。2050年ではあと26年です。皆さんの年齢に、26年、6年を足してみてください、皆さんがどういう役割を社会の中で担っているか。社会に出て活躍したり、家庭を持って暮らしたりする中で、今よりももっと気候が暑くなったり、もっと大きな台風が来るようになっていたり、急激な雨がもっと降るようになって、農産物がなかなか採れなくなってしまうたり、いろいろなことが想像されると思います。それは私たち以上に若い皆さん自身の大きな問題でもあると思っています。ですから、どう自分事として行動していくか、考えていくかがすごく重要だと思います。

今日来てくださって皆さんは、非常に意識の高い皆さんですが、こういった意識を多くの方に持っていただくことが、何よりも重要だと思っています。是非、高い意識を持ち続けていただければと思っています。

また、自治会とか、老人会などを活用して、そういった具体的な取組なども少し話をし、一緒にやっていったらどうかという御提案もいただきました。そのことも、是非私たちも考えてみたいと思います。

●参加者

< 発言10 >

太陽光発電についてお話したいと思います。学校の屋上に太陽光パネルを設置する視点はとてもよいなと思っています。学校の屋上は立ち入り禁止になっていて使えません。そこを有効活用する点がとてもよいなと思いました。太陽光発電は、太陽光パネルが雨風にさらされて、20年から30年で寿命を迎えてしまいます。寿命を迎えた際の廃棄についても説明することが大切だと考えています。そうすれば維持費や設置費、廃棄のお金についても、市から説明があれば、更に取り入れたいと思う家庭が増えるのではないかなと思います。

あとは、都市開発が進む一方、緑が失われていることもあるのが、とても悲しく、緑がもっと欲しいと思います。二酸化炭素を減らすという面で、もっと緑化活動や植林活動を充実させてほしいと思います。

あと、私は昔からプールを使っていたので、沼影プールがなくなってしまうことがとても悲しいのですが、そういう遊べる空間をなくさないのが大切だと思います。車を使ってしまうのは、地球温暖化で外が暑いせいもありますが、車を使わなくて済むような環境を整備してもらいたいと思います。今ある子どもたちが遊べるような公園、プール、いろいろな施設を大切にしてほしいと思います。

<発言11>

具体的にいろいろな市の先進的な取組を伺い、非常に期待しているところですが、その危機感がなかなか市民の間に共有されていないと思います。私は非常にこの気候危機が怖いのです。サンゴの白化の写真を見まして、昔、何回か沖縄にシュノーケリングに行ったのですが、その時にきれいだったサンゴ礁は、ここ数年でものすごく白化が進んでいます。何で白化が進むかという、海水温の上昇です。海水温が上昇するとサンゴの中の褐虫藻が抜け出してしまい、サンゴが死んでしまいます。サンゴが死ぬと、当然魚もいなくなるので、死の海になってしまいます。そういう現象が、グレートバリアリーフなどでも進んでいるので、もう本当に地球が危機的状況だという思いを非常に持っています。

そういった危機感を持っている人がどの程度いるのかなという思いがあります。単に豪雨があるとか、そういうことだけではない様々な危機が、このまま地球温暖化が進むとあると思います。知らないウイルスが出てきたり、気候難民が発生したり、といった様々なことが起きることが考えられます。そういった可能性もしっかり発信して、皆で力を合わせて何とかして、新しい未来、皆さんのために、特に少し年上の者として何とかしたいなと思っています。それが共有できるようなわかりやすい発信を是非お願いしたいです。

あと、気になっていることは、まだそんなに知られていないかもしれない気候正義、国家間の不正義についてです。二酸化炭素を出している国と、二酸化炭素出していないのに地球温暖化の被害を受ける国があり、太平洋の島、サンゴ礁でできた国など、海面が上昇すると国がなくなってしまう、そういう国があることや、あと世代間の不公平、我々は便利な生活を満喫して、これからの世代のために負のツケを回してよいのか、そういう不正義、気候正義という概念がEUなどで言われています。私も最近知ったので、気候正義等についても広く周知していただき、特に今まで便利に暮らしてきた私たちくらいの世代に対して、それでよいのかと問いかけてほしいと思います。

あと、これも最近知ったのですが、2015のパリ協定の前に、世界市民会議という全世界の国を巻き込んでやったアンケートで、気候変動対策に取り組むことへの認識を聴いています。そうすると、それは生活の質を高めるものだと回答した人が世界ではすごく多いのですが、日本は少なく、逆に、生活の質を脅かすものだと回答した人が世界では少なく、日本では多いという結果でした。

でも、さいたま市の取組や、今までいろいろ取り組んでいたことは、生活の質を高めること、未来の生活をよくしていくことだと思います。だから、気候変動に対応していくという消極的ではなく、よりよい未来をつくっていくための、ポジティブなものなのだというのを、もっと発信してほしいなと思います。だから、「皆さんにお願いしたいこと」という感ではなく、「皆さん自身が主役になって住みよい社会をつくっていく」という感じで発信をお願いしたいなと思います。

<発言12>

学校の生徒会で、学校内でできることということで、ごみ捨て、リサイクルや分別、環境活動、ボランティア、個人の意識の面では節電・節水などをやっていけたらよいなと今

回思いました。

自分の経験としては、所沢市の中学校なのですが、緑のカーテンということで、ヘチマを育てて、暑さ対策、それによるエアコンなどの節電を中学校で取り組みましたので、そういうことも高校でもやっていけたらなと感じています。

太陽光発電だけでなく、生徒を中心に何かやっていけたらよいなと思ったので、高校の存続期間の残り2年半で、市や県と協力して、手軽にできることがあればやっていきたいと感じました。

<発言13>

身近でやっていることをお話したいと思います。

先日学校の企業見学で、ペットボトルのリサイクル工場に行きました。ペットボトルを再生利用して、何度も同じものをきれいにして使っていくというので、そこで自分でもできることがあるかを聞いてみました。ごみを捨てる際に、ペットボトルのキャップとラベルを家では外すのですが、自動販売機とかで買って外で捨てる時には分別をしていなかったのです。自宅でごみの分別をするのは、市のチラシなどに書いてあるからですが、外だと手間がかかってしまうので、少し面倒でやりたくないなと思っていました。その会社は2030年に向けて全部再生利用をして、できるだけ地球温暖化対策に役立てたいというのを聞いて、自分も外でもちゃんと分別しながら、他にも自分たちでできることを探していきたいと思いました。

<発言14>

市で具体的に取組んでいただきたいことのひとつなのですが、なるべく近くで生産されたもの、なるべくエネルギーを使わないで生産されたものを使うように推奨してほしいということです。それこそ昔は当たり前だったと思うのですが、今は外国で作られた野菜などがたくさん並んでいます。そうではなく、なるべく近くの地産地消のものを普段から食べることで、生産や運搬に使うエネルギーを減らせます。市が作っている「皆さんにお願いしたいこと」の中に、地産地消の推奨を入れ込んでほしいです。気軽に行くことができる青空市場があればもっと普段の生活の中で、地産地消をしやすくなると思います。

<発言15>

廃棄処理されてしまう作物がたくさんあります。特に、今年は高温でとても出来が悪くて、商品にならない作物がたくさんできました。私も家庭菜園を80坪ぐらいのところで行っているのですが、今年はキュウリが生らないし、ナスはすぐ大きくなったり傷がついたり、今年は自宅ですら消費しませんでした。去年、おととしまでは、夏の野菜はよく自宅の前に100円でどうぞというのをやっていたのですが、それをするには、見栄えがよいものを出さなければいけません。でも今年は本当に形が悪くて、できませんでした。

ですので、例えば学校給食とかは、形が悪くても味は変わらないわけですから、家庭菜園で作ったものを使用してもらえると、生産者もとても助かります。スーパーにはしっかりしたものを出さないといけないですが、学校給食で扱っていただければ、廃棄処分も少なく済みますし、学校としても通常より安く手に入れることができると思います。また、給食が提供できない問題が全国で発生していると聞いていますし、食材の高騰でなかなか子どもたちに満足に提供できないという地元小学校の栄養士の話もあります。若干、見栄えが悪くても給食室で調理をきちんとしてくださると思うので、家庭菜園の廃棄処分も少なくなり、生産者も助かると思います。

◆市長

>>発言10

学校の屋上を太陽光発電で活用することは非常によいことだという中で、太陽光パネルの寿命が終わった後の廃棄や、リサイクルの仕方なども説明や注意する必要があるというお話をいただきました。

これは本当に重要な視点だと思っています。幾つかの企業で太陽光パネルのリサイクルに取り組んでいる企業もあります。これからおそらく大量に太陽光パネルが廃棄される時期になるので、どう再活用していくのかも含めて、処理方法について、十分注意を払わなくてはならない重要な課題だと考えています。

それから、緑化をもっと充実させるべきだというお話もいただきました。私たちも、特に駅周辺については、緑が必ずしも十分ではないと思っています。まちづくりの中で街路樹を植えるということをやっていますが、まだまだ緑地が十分ではないと私自身も感じています。2都心・4副都心のまちづくりなども含めて、再開発をやっていきますので、その中で緑をまちづくりの中に取り込んでいくことは、これからのまちづくりにとってすごく重要だと思っています。これから高齢化社会になり、皆がゆとりを持って暮らしていかなければいけない時代を迎える中で、緑を拡充していく視点も持ってまちづくりをしていきたいと思えます。

それから、沼影プールのお話が出たのですが、沼影プールについては、これまで御利用いただいた市民の皆さんには大変申し訳なく思っています。プールについては、同じ場所ではありませんが、レジャープールを設置しようと考えています。さいたま市は人口が増加していて、特に0歳から14歳の転入超過がものすごく多い状態です。特に、沼影の周辺の小学校は過密状態で、子どもたちによい教育環境の中で学んでほしいということがあって、沼影のプールの敷地を活用させていただいて、義務教育学校をつくる方向で決めさせていただいています。学校の規模が大きくなることで、不安視されている方々もいらっしゃいますが、今、理解していただくために、教育委員会で説明をしていますので、今よりよい教育環境に、それぞれの学校がなっていきます。プールも配置していきたいと思っていますから、その辺は御安心いただきたいと思えます。

>> 発言11

危機感をもっと共有をできるように発信してほしいというお話をいただきました。まだまだこの地球温暖化の問題、脱炭素という問題について、危機感を持っている方と、そうでない方との差が非常にあるだろうと思っています。その中で、私たちがどうその危機感や情報を共有して、皆で同じ方向を向きながら進められるかということはずごく重要だと思っています。私たちとしても発信、そして具体的な取組への提案なども含めまして、更に情報発信の強化をしていきたいと思えます。

また、気候の不正義というお話もいただきました。私自身も必ずしも十分知っていたわけでありませので、新しい気づきをいただきましてありがとうございます。

そして、皆さんへのお願いではなくて、皆さんが主役で一緒につくりましょうという伝え方がよいということは、これは私もそうだと思います。そうしていきたいと思えます。

>> 発言12

高校の生徒会活動の中で、具体的な活動に取り組むことの重要性を理解していただいたということで、県や市と一緒にいろいろな活動に取り組ませていただきたいというお言葉をいただきましてありがとうございました。

是非学校も巻き込んで、私たちも具体的なアクションを取り組めればよいなと思えます。

>> 発言13

ペットボトルのリサイクル工場を見学されたときに、聞いて感じたことをお話しいただきました。私も、家ではキャップを外してラベルを取って、分別していますが、確かに外へ行くと、やれていないなと反省するところです。そういう気づきがあることが、すごく

重要なことだと思いますし、私たちもいろいろな気づきを持っていただく機会をたくさん作りながら、皆さんと一緒にゼロカーボンシティをつくりたいと思います。

>> 発言14

なるべく地産地消、できるだけ近い場所で採れたものを消費するという考え方を広めてほしいというお話をいただきました。さいたま市も地産地消については積極的に取り組んでいます。

特に、学校給食の中でも、地域で採れたものを食べていただく割合をできるだけ増やすことも取り組んでいるところです。御案内のとおり、できるだけ近くで採れたもの、生産者の顔が見える、そういった食べ物を食べることが重要だと思っていますし、さいたま市の給食は政令指定都市では唯一、全校に給食室がある、自校式の給食です。これはさいたま市のこだわりです。さいたま市は行財政改革、徹底してやっています。ですが、給食室だけは、給食センター方式ではなくて、給食室を各校に置くことは、こだわりを持って、前市長から含めて、私の時代、最終的には5年ぐらい前に全部できるようになりました。さいたま市の中でも、給食しか食べられないお子さんもいます。

それから、身近で作ったものを食べてもらいたい、温かくて、おいしくて、安全なものを食べてもらおうということで、こだわって自校式給食にしていますが、これははっきり言ってコストもかかります。センター方式と比べて、それぞれの学校に給食室を配置し、調理員の方々も配置しなければなりません。それでもさいたま市は自校式の給食にこだわっていますので、食育の大切さを私たちもわかっているつもりですので、地産地消を含めて、しっかり地球温暖化の問題なども、子どもたちにも一緒に考えてもらいながらやっていくとよいのかなと感じたところです。

>> 発言15

学校の給食の中に家庭菜園で採れた野菜を、という御提案をいただきました。できればいろいろ取り入れさせていただきたいとは思っています。廃棄される農作物のことについては、少し私たちなりにも考えていかななくてはいけないと思います。

給食に家庭菜園の野菜を取り入れることでいうと、若干難しさがあります。さいたま市の学校は、生徒がかなり多くいる学校が多いので、大きさにかなりばらつきがあると、調理を一定の時間で行うことが難しくなってしまう。ただ、廃棄される農産物が多いのは私たちも聞いていますので、それらをどう活用していくのかは、すごく重要なことだと思います。これらも含めて、対策が取れないか考えていきたいと思っています。

今日は皆さんから、非常に積極的で、また前向きな御意見をたくさん頂戴しました。

特に、今回は若い皆さんに多く参加していただいて、若い皆さんの意識の高さを改めて感じたところです。地球温暖化は、もちろん私たち自身の問題でもありますし、若い皆さんにとっては特に皆さん自身にとっても大きな影響を受ける、そういう問題でもあると思います。私たち市も含めて、是非若い皆さん一緒に、この地球温暖化をいかに防いでいくかということを考えて、また一緒に取り組んでいきたいと思っていますので、よろしくお願ひします。

今日は御出席をいただき、非常に前向きないろいろな御意見頂戴できたこと、ありがたいと思っています。

また、さいたま市や皆さん自身の未来のことを一緒に考えられたこと、大変有意義な時間だったと思います。大変ありがとうございました。また今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。

■ 補足説明

「Z E Hの取組」について

毎年度さいたま市で行っている「スマートホーム設置補助金」ではZ E H住宅に対して20万円の補助金を出すことでZ E H住宅の促進を図っております。

(環境局 環境共生部 脱炭素社会推進課)

「側面に貼れる太陽光パネルを高速道路の壁面に導入」について

管理しているのは、首都高速道路株式会社と東日本高速道路株式会社になります。

(建設局 土木部 広域道路推進室)

「充電スポットに対する補助金」について

脱炭素先行地域の取組の一環として、E Vステーションの導入に対して、国の交付金を活用しながら市内に一層拡充していけるよう事業に取り組んでいるところでございます。

(環境局 環境共生部 脱炭素社会推進課)

「太陽光パネルの寿命が終わった後の廃棄や、リサイクルの仕方」について

埼玉県がホームページで適正な処理方法について紹介しております。本市でも、大量の太陽光パネルの廃棄される時期に差し掛かっていることもございますので、本市でもホームページ等を通して周知を図ってまいりたいと考えております。

(環境局 環境共生部 脱炭素社会推進課)